

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		田中淳一		所 属		理学部 海洋自然科学科		職 名		教授	
領域		業務 ウェイト比 (予定)		平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)		平成25年度 年度末自己点検結果			
教育		0.35		共通科目(化学入門II)、専門科目(海洋有機化学、同実験、有機化学II、基礎ゼミ)、大学院の科目(海洋生態化学特論)については、学生の知的好奇心を促すような授業になるように努力する。研究室でのセミナー、卒研(1名)、特別研究(計4名)では最新の研究を授業に反映させる。		0.35		化学入門II、有機化学II、海洋有機化学、同実験、基礎ゼミを開講した。特に化学入門IIと有機化学IIでは、単に教科書の内容だけでなく、できるだけ興味をもてるようにそれ以外の内容を盛り込むようにした。卒研1名、博士前期課程の特別研究4名の指導を行った。			
研究		0.35		研究成果を国際誌に3報以上発表する。国際および国内学会に各1回は参加し、発表を行う。研究費では、受託研究を2件(知的クラスター、サポイン事業)と寄付金1件を受け入れるようにする。学内のサンゴ礁ハブ形成プロジェクトにも応募する。		0.20		2013年は国際誌に4報の論文を発表した。第14回海洋天然物国際会議(9月)ならびに日本マリンバイオテクノロジー学会(6月)において発表をした。受託研究(サポイン事業、知的クラスター事業)を2件、寄付金を2件受けた。サンゴ礁ハブ形成プロジェクトにも参画した。			
社会貢献		0.10		海洋天然物化学に関連する企業「OP BIO」ならびに「Meiji Seikaファルマ」と共同研究を発展させ、海洋(微)生物から医薬品のリード化合物が見いだせるように努力する。放送大学から大学院生1名を受け入れ、学位取得に向けて指導する。		0.10		「OPBio」ならびに「Meiji Seika ファルマ」の2つの企業と共同研究を展開し、医薬品リード化合物の探索研究を行うとともに、報告会等で進行状況を紹介した。放送大学から大学院生1名を受け入れ、学位取得に向けて指導した。			
管理運営		0.15		化学系主任として、系での審議、回答、決定事項等の取りまとめ、学部内での会議(代議会、教育委員会、研究推進委員会等)への出席、化学系の人事(平成26年度採用予定の2名)の手続き、様々な行事等の業務を行う。		0.30		化学系主任として、新入生のオリエンテーション、卒研発表会、系会議、系からの回答文書、決定事項の取りまとめ、学部内での会議(代議会、教育委員会、研究推進委員会等)への出席、化学系の教授人事(平成26年度採用予定の2名)の公募や選考等、系内での催しなど様々な業務を行った。			
進路指導		0.05		今年度、当研究室からの卒業(修了)予定者は4年次1名しかいないが、在学生も含め進路の相談にのる。田中が関係する企業等から就職の案内があった際には、化学系にも情報を提供するようにする。		0.05		当研究室の4年次学生は無事に就職内定した。博士前期の学生のうち1名は県内の公務員試験に合格したので、そのまま就職することを勧めた。特別プログラム博士前期課程2年の1名の後期延長の申請を行った。当研究室で博士後期を希望している明治薬科大学の学生の受け入れ手続きを進めた。			
		0.00				0.00					
計		1.00		<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00		<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		高良 聡	所 属		理学部 海洋自然科学科
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.25	正規の授業科目に加え、化学系学生の科学英語力向上を目指した「基礎科学英語勉強会」を主催する。また、研究室所属学生を対象とする「雑誌会」および「勉強会」を実施し、最先端の研究の理解ならびにプレゼンテーション技法について実践的指導を行う。		0.25	最新の研究に関する英語論文を紹介する「雑誌会」および「勉強会」を定期的(週に一回)に行い、プレゼンテーション能力の向上、有機金属化学および錯体化学の最先端の研究の理解に加え、基本的な科学英語の教育も同時に行った。
研究	0.25	得られた研究成果を学会(日本化学会年会または錯体化学討論会)で発表し、学術論文として投稿する。		0.25	共同研究として論文を1報(J. Comput. Chem. Jpn., Vol. 12, No. 3, pp. 157-161 (2013)、査読有)を発表した。また、主著者として原著論文2編の投稿準備中である(Polyhedron, Eur. J. Inorg. Chem., 3月に投稿予定)。第63回錯体化学会討論会で発表を行った(2件)。
社会貢献	0.15	錯体化学第63回討論会(開催地:琉球大学 2013年11/2~4、参加者数約1200名見込み)実行委員会事務局長として討論会運営に従事する。受験生獲得を目的として高校訪問を行う。		0.15	錯体化学第63回討論会(開催地:琉球大学 2013年11/2~4)実行委員会事務局長を務めた。化学系としての高校訪問事業は行われなかった。
管理運営	0.20	理学部将来計画委員会委員、化学系評価・将来計画委員会委員長ならび施設・安衛法対策委員会委員および教務委員会委員を務める。また、日韓共同理工系学部留学生実施委員として従事する。		0.20	理学部将来計画委員会委員、化学系評価・将来計画委員会委員長として、主に「ミッションの再定義」書類作成に携わった。他の活動は特になかった。
進路指導	0.15	必要に応じて個人面談などを行いながら研究室学生の希望進路を把握し適切な指導をする。		0.15	個人面談を通し、大学院学生の進路について指導した。学内施設の非常勤職員として勤務予定。
	0.00			0.00	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		米藏誠哲	所 属	理学部 海洋自然科学科	職 名	准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.36	・本年度より担当する量子化学Iおよび構造化学の準備・講義を行う。		0.38	量子化学Iおよび構造化学を準備・講義した。	
研究	0.40	・これまでの研究(全生体ソフト物質ダイオード・石けん膜上液滴の濡れ広がり)をまとめ公表する。 ・超イオン伝導体ラチェット・電気泳動ロッキングラチェット・石けん膜上液滴の誘電泳動の研究を実施する。		0.40	・全生体ソフト物質ダイオードと石けん膜上液滴の濡れ広がりはまだ公表していない。 ・電気泳動ロッキングラチェットと化学パロンドゲームの研究を実施した。	
社会貢献	0.02	・県内高等学校の生徒を対象に化学系の紹介または物理化学分野の研究紹介を行う。		0.00	・社会貢献活動はできなかった。	
管理運営	0.20	・学生支援委員会委員長の仕事をする。 ・化学系委員会委員(教務委員会・評価将来計画委員会)の仕事をする。 ・3年次指導教員・卒研・修論発表の世話人の仕事をする。 ・その他の学内委員の活動を行う。		0.20	・学生支援委員会委員長の仕事をした。 ・化学系委員会委員(教務委員会・評価将来計画委員会)の仕事をした。 ・3年次指導教員・卒研発表の世話人の仕事をした。 ・その他の学内委員の活動を行った。	
進路指導	0.02	・卒業研究生(3名:公務員希望)について公務員試験の受験を配慮した指導を行う。		0.02	・卒業研究生について公務員試験の受験を配慮した指導を行なった。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		中川 鉄水		所 属		理学部 海洋自然科学科 化学系		職 名		助教	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果				
教育	0.35	情報科学演習、共通教育化学実験は初めての授業なので1年を通して教え切る。また、これまでやられていなかったことを積極的に試し、自分の教育スタイルを作る。常に生徒のことを考えた教育を行う				0.50	情報科学演習はよりレベルの高い内容を教えることができ、学生も技術が習得した。また、共通教育化学実験も、アンケートやプレ実験を導入することで学生の理解度向上と性格把握に成功した。更に授業外でも英語セミナーや群論のセミナーを開催し、積極的に学生が参加してくれるような環境が出来上がった。				
研究	0.30	通年を通して研究活動を行うのは初なので、外部資金は最低でも1つ獲得し、研究室の体制を整える。特に本研究室は空気非接触の環境が必要なので、実験機器を最低限整備する。前職以前の仕事で出すべき論文を最低3報掲載する。				0.20	研究機器の整備は現状7割程度なので来年度には完成させるようにしたい。他機関から譲渡してもらった機器が整備できたので、来年度からこれを使って一定の結果は出せるめどは立った。外部資金ではないが学内の資金を獲得し、論文は2報掲載でき、1報は現在投稿中なので、ある程度目標は達成できた。				
社会貢献	0.05	異業種交流会等に積極的に参加し、情報収集を行うことで社会が現在の研究者に求められているものを探ると同時に、自分の研究分野の将来像や方向性を発信する。				0.05	異業種交流会だけでなく、宜野湾市ワークショップにも参加し、積極的に沖縄の情報収集が行えた。また、企業からの技術相談の問い合わせが2件あり、これに回答した。自分の将来像・方向性を決定・発信はまだ不十分なので来年の課題としたい。				
管理運営	0.10	系会議の書記となっているので不在時の代役を除き、すべての回で的確に記録を残す。				0.05	助教なので仕事量は少ないが、会議の書記については的確に記録を残せた。ただし残す情報の取捨選択がうまくいかなかったので、引き継ぎの時に申し送りとして残したい。また、会議でも的確な発言を心掛け、いくつかは系の決定事項の一助となったのではと考えている。				
進路指導	0.10	1年次指導教員となっているので、学生の現状をよく把握し、必要に応じて学生と密に連絡を取る。情報はきちんと伝える。1・3年次研修ではトラブル無く、1年生にとって実のあるものにする。				0.10	1年次に積極的に関わり、ほぼ全員の性格や学力の把握ができた。1・3年次研修も成功し、学生に「近い」という印象を持たせ、よく相談を受けるようになったことは成果である。また、1年だけでなく2～4年次、更には院生にも相談を受けるようになり、進路指導だけでなく様々な面に対して学生に影響を与えたと思う。				
学会運営	0.10	錯体化学第63回討論会(開催地:琉球大学 2013年11/2～4、参加者数約1200名見込み)実行委員会事務局役員として討論会運営に従事する。				0.10	学会は大きなトラブルが無く終了できた。また、来年度の水素若手研究会と小さな国際会議を沖縄で開催することを決定し、現在その運営を行っている。来年度はそれらの研究会を成功させることを目的としたい。				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 				1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		堀内敬三	所 属		理学部 海洋自然科学科
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.45	<ul style="list-style-type: none"> ・9年ぶりに開講する「物性物理化学A」、2年振り2回目の開講となる「アドバンスト物理化学」、今年度からあらたに担当する「化学Ⅱ」の講義の準備をしっかりと行う。 ・大学院講義の「X線構造解析特論」、「磁気共鳴特論」、「Principles of Structure Determination」の内容を更に充実させる。 		0.45	<ul style="list-style-type: none"> ・「物性物理化学A」、「アドバンスト物理化学」、「化学Ⅱ」の準備がしっかりできた。 ・「X線構造解析特論」と「磁気共鳴特論」、「Principles of Structure Determination」の講義内容の改訂を行った。
研究	0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・国際誌に学術論文(二重融解、構造相転移、常磁性体のスピンドYNAMIX)を投稿する。 ・学外研究者との共同研究(亜鉛、カドミウム、水銀錯体の構造相転移と分子運動)を推進する。 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・国際誌に学術論文を投稿することができなかった。 ・学外研究者と共同研究を推進することができた。
社会貢献	0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・一般市民を対象に公開授業(「化学Ⅱ」)を行う。 ・県内高校への出前講座を実施する。 ・教員免許更新講習の講師を担当する。 ・日本化学会九州支部幹事、日本化学会九州支部化学教育協議会幹事を務める。 ・沖縄県理科・化学教育懇談会会長を務める。 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業(「化学Ⅱ」)の受講者は無く、出前講座も依頼がなかった。 ・教員免許更新講習の講師を1件担当した。 ・「化学グランプリ」の1次選考会場の責任者、「化学フォーラム」の開催責任者等を努めた。
管理運営	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・全学学士教育プログラム委員会の化学系委員を務める。 ・理学部エコ推進委員会委員を務める。 ・理学部代議会の化学系代議員を務める。 ・化学系教務委員会の委員長を務める。 ・化学系入試方法検討委員会の委員を務める。 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・全学学士教育プログラム委員として、化学系の教育プログラムの整備を行った。 ・化学系代議員として代議会に出席し、内容の報告を行った。 ・カリキュラム委員会の委員長として、化学系カリキュラムの整備を行った。
進路指導	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究担当学生の進路指導を行う。 		0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・担当した3名のうち2名の就職が内定した(1名はJA沖縄、1名は沖縄県警)。
	0.00			0.00	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		鈴木俊雅	所 属		理学部 数理科学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.35	<ul style="list-style-type: none"> 有機化学IVにおいて学生が興味を持ち内容を理解しやすいように努力し、受講生の1/4以上がA評価をもらえるように指導する。 共通教育化学実験で、簡単な高校の復習からはじめ高校で化学を履修していなかった学生でもB以上の評価がもらえるように指導する。 基礎ゼミにおいて、講義に1回以上実験を取入れ高校化学の復習を行う。 学生が論文の内容を理解できるようにするため研究室セミナーを年20回以上行う。 			0.35	<ul style="list-style-type: none"> 有機化学IVにおいて学生が興味を持ち内容を理解しやすいように努力し、受講生の1/4以上がA評価と目標を達成した。 共通教育化学実験で、高校で化学を履修していなかった電気電子の学生33名の内、A評価10人、B評価15人と目標以上の成績を取寄せさせた。 基礎ゼミにおいて、講義に1回以上実験を取入れ高校化学の復習を行い、また、高校のときにはできなかった蒸留などの実験を行って、化学に対する理解や興味を深めた。 学生が論文の内容を理解できるようにするため研究室セミナーを年20回以上行った。 		
研究	0.40	<ul style="list-style-type: none"> 学術専門誌に1報以上の受理掲載を目指す。 外部資金を獲得するように努力する。 			0.40	<ul style="list-style-type: none"> 学術専門誌のChemCommun誌に2月1日に投稿した。 知的クラスターのシンポジウムで1件の発表を行った。 沖縄県知的形成事業の構築という外部資金(400万程度)を獲得した。 		
社会貢献	0.05	<ul style="list-style-type: none"> 理学部体験ツアーの開催に協力する。 化学フォーラムの開催に協力する。 			0.05	<ul style="list-style-type: none"> 化学フォーラムの開催において、会場設営などの準備または運営に貢献した。 センター試験の予備監督を行った。 		
管理運営	0.15	<ul style="list-style-type: none"> 化学系内委員会として教務委員会および施設・安衛法対策委員会の運営に協力する。 理学部内委員会として安全衛生委員の運営に協力する。 全学委員として発明審査委員の運営に協力する。 化学基礎実験の世話人として活動する。 			0.15	<ul style="list-style-type: none"> 化学系内委員会として教務委員会および施設・安衛法対策委員会の運営に協力した。 理学部内委員会として安全衛生委員の運営に協力した。 全学委員として発明審査委員の運営に協力した。 化学基礎実験の世話人として、円滑に授業を進めるよう努力した。 全学の化学物質管理専門部会の委員として、大学全体の試薬管理規定を作成した。 		
進路指導	0.05	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究生の就職活動状況を月に1度の割合で把握し、相談・指導を行う。 			0.05	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究生の就職活動状況を月に1度の割合で把握し、相談・指導を行った。今年度は、1名が名古屋大学大学院へ進学した。 		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		安里英治	所 属		理学部 海洋自然科学科 化学系
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.30	1)今年度から受け持つ「化学II」では補助教材に工夫を施し、「基礎ゼミ」を利用して適宜解説を加える事で学生の理解向上につとめる。 2)正規の授業以外に「雑誌会」を毎週開催し、最近の研究分野の動向を学生とともに学ぶことで研究室所属学生の資質向上につとめる。 3)単位取得率の低い「無機化学II」では、小テスト制を導入して学生の理解と単位取得率向上につとめる。		0.30	1)新しく担当した「化学II」では毎回の講義終了時にクイズ形式の小テストを実施し正解者に加点する評価制度を取り入れた結果、受講生の出席率アップと集中力向上につながり、学生の理解向上に役立った。 2)前・後期の毎週、高良研究室と共同で「雑誌会」を行い、研究室所属学生の研究指導に役立てた。 3)「無機化学II」では小テスト制を導入しているが、学生の授業評価アンケートでは比較的好評であったものの、単位取得率に大きな改善は見られなかった。
研究	0.30	1)佐賀大、山形大との共同研究、北九州高専との共同研究を推進し、学会で成果報告を行う。 2)研究成果を国際誌へ1報以上投稿する。 3)科研費等の外部資金獲得につとめる。		0.30	1)佐賀大との共同研究の一部を錯体化学討論会で報告した(一件)。 2)山形大との共同研究を国際誌へ投稿したが採択されず、国内誌へ再投稿し受理された(1報)。 3)北九州高専との「複合酸化物の調製法開発」に関する共同研究がまとまり、国際誌へ投稿したが採択されず、現在再投稿中で審査中(1報)。
社会貢献	0.20	1)錯体化学討論会(11月2~4日/錯体化学会主催)の実行委員長として、学会の成功につとめる。 2)県内高校へ出向き、化学系紹介等のアウトリーチ活動を実施する。		0.20	1)錯体化学討論会の実行委員長として、無事に学会を運営することが出来た。なお、学会参加者は1250人に達し、過去63回の中でも最大の規模であった。 2)今年度は高校側からの訪問依頼が少なかったため、今日現在、高校訪問は実現していない。3月末までに依頼があれば、アウトリーチ活動を実施する予定。
管理運営	0.10	1)本年度の全学委員、理学部委員、化学系委員の職責を全うする。		0.10	1)本年度の全学委員、理学部委員、化学系委員の職責を全て全うした。
進路指導	0.10	1)研究室所属学生(M2:2名、M1:1名、B4:2名)に対し、県内外企業等に関する情報提供を続け、就活意識を高めるとともに就職の実現を手助けする。大学院進学希望者には情報提供の他、学問的アドバイスのよりその実現を手助けする。 2)1年次指導教員として履修・生活指導等、きめ細かな指導を行う。		0.10	1)卒業、修了対象の学生4名のうち、修了生1名は休学のため修了が1年伸びたが、残り3名を無事、卒業・修了に導き、就職と大学院進学を実現させた。卒業生1名は本人の希望により、就職活動を行っていない。 2)1年次指導教員として全ての学生のメールリストを作成した。履修・生活指導等は従来よりも迅速かつ正確に伝達出来る体制を作り、きめ細かな指導を行った。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		漢那 洋子	所 属		理学部 海洋自然科学科 化学系
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.35	●専門必修科目「物理化学実験」の実験書を改訂する。●専門選択「アドバンスト物理化学」に演示実験を取り入れる。●「量子化学Ⅱ」と「反応速度論」を新たに担当する。●「光化学」の講義に一部トピックス的な内容を導入する。●共通教育「化学Ⅰ」を新たに担当する。		0.24	●専門必修科目「物理化学実験」の実験書に関して、来年度の改訂に向けて共同担当者と議論・話し合いを行った。改訂テーマ分の執筆自体はこの3月に行う予定。●専門選択「アドバンスト物理化学」の“光反応による医学治療”に関する講義に演示実験を取り入れた。●今年度、新たに「量子化学Ⅱ」と「反応速度論」を担当した。●「光化学」の講義に1部トピックス的な内容(生体系の光化学の内容)を導入した。●今年度、新たに「構造化学」の1部を担当した。●今年度、新たに共通教育・専門基礎科目「化学Ⅰ」を担当した。●来年度、新規開設される共通教育「キャリアデザインとジェンダー」の1部を担当する準備として、“理系女子のキャリアデザイン”や“ジェンダーと自然科学”に関する資料・情報の収集に着手した。
研究	0.35	●たんぱく質と結合した有機分子の光反応について、論文を執筆・投稿する。●光化学を題材にした科学教育の研究について論文を執筆・投稿する。●国際沖縄研究所の併任教員として、「ジェンダーと自然科学」のテーマに関した調査を行う。		0.24	●これまで実施してきたイオン液体中のフォトクロミズムの研究テーマについて、新たにイオン液体-分子性液体混合系の実験に着手した。●たんぱく質と結合したオレフィン光反応について、論文執筆の準備中である。●たんぱく質と結合した芳香族化合物の光化学に関して直前に記載のものは別の反応系・光物理現象の実験に新たに着手した。●光化学を題材にした科学教育について論文を執筆中である。●「ジェンダーと自然科学」に関して、国際沖縄研究所(沖縄ジェンダー学の創出)の報告書に報告を公表した。●「ジェンダーと自然科学」のテーマに関した調査を行った(お茶の水女子大学ジェンダー研究センターおよび国立女性教育会館)。
社会貢献	0.10	●今年度の「教員免許状更新講習」において、本学提供の選択領域科目として、1講座を担当する。●公益法人日本化学会の代表正会員を務める。		0.24	●「教員免許状更新講習」において、本学提供の選択領域科目として「光と物質—色と化学変化—」を開講した。●日本化学会の代表正会員として化学教育・普及活動に努めた。●附属中学校の第4回「体験!琉球大学」において光化学(光と色と化学変化)の出前授業を行った。●オープンキャンパス男女共同参画企画「女性研究者による理系女子への自然科学分野の紹介」において、光化学を中心とした自然科学分野の紹介の講演・演示実験および自然科学分野における男女共同参画の意義の紹介を行った。●国際誌より依頼され論文の査読を実施した(1件)。●第36回沖縄青少年科学作品展の審査員を依頼され、審査と講評作成等を行った。
管理運営	0.15	【全学】●附属図書館運営委員および自己点検・評価委員の仕事を行う。●男女共同参画室室員としての仕事を行う。【理学部】●理学部図書委員としての業務を行う。【化学系】●化学系教務委員としての業務を行う。●化学系施設・安衛法対策委員としての業務を行う。		0.24	【全学】●附属図書館運営委員会および自己点検・評価委員会において審議に参加した。●男女共同参画室室員としての仕事を行った。特に、国立女性教育会館の大学等における男女共同参画推進セミナーに派遣され、主に理系女子学生へのキャリア形成支援教育について研修し、その報告を行った。【理学部】●理学部図書委員としての業務を行った。今年度は特にデータベースや電子ジャーナル等の学術情報基盤資料の見直しに関連して化学系内の意見取りまとめ等を行った。【化学系】●化学系教務委員としての業務を行った。今年度は主に、物理化学分野のカリキュラム改善のため、他大学のカリキュラム調査、科目・内容の整理統合、必修科目の設定の議論、および便覧改訂の仕事を実施した。また、大学院の教職課程認定手続きに必要な書類作成の仕事を行った。●化学系施設・安衛法対策委員として話し合いに参加した。【その他】●その他の学内委員の仕事を行った。
進路指導	0.05	●当研究室に所属する学生に対して、それぞれの希望する進路に配慮した指導や情報提供を行う。		0.04	●当研究室に所属する学生に対して、それぞれの希望する進路に配慮した指導や情報提供を行なった。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前	土岐 知弘		所 属	理学部 海洋自然科学科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定	業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.20	海洋無機化学実験のテキストを作成する。	0.37	作製した。		
研究	0.20	ファーストで、英文国際学術誌(インパクトファクター3以上)に投稿する。	0.40	<p>共著も含め、以下の7編をPublishしたが、ファーストは日本語一編に留まり、目標に向けて英語原稿は現在最終推敲段階にあるが、投稿するまでに至らなかった。随時推敲を進め、本年度中の投稿を行う。</p> <p>1. Yoshifumi Kawada, Tomohiro Toki, Masataka Kinoshita, Masato Joshima, Ryosaku Higa, Takafumi Kasaya, Urumu Tsunogai, Kiyokazu Nishimura, and Kiyoyuki Kisimoto: Tracing geologically constrained fluid flow pathways using a combination of heat flow measurements, pore water chemistry, and acoustic imaging near the deformation front of the Nankai Trough off the Muroto Peninsula, Japan, Tectonophysics, Accepted</p> <p>2. Shigeshi Fuchida, Yuki Mizuno, Tomohiro Toki, and Harue Masuda, Concentrations and distributions of amino acids in black and white smoker fluids at temperature over 200° C, Organic Geochemistry, v.66, 98-106</p> <p>3. 土岐 知弘, 比嘉 良作, 棚原 朗, 井尻 暁, 角皆 潤, 芦 寿一朗: 熊野泥火山における間隙水の起源, 地球化学, v.47(4), 221-236, 2013</p> <p>4. Toshiro Yamanaka, Kotaro Maeto, Hironori Akashi, Jun-ichiro Ishibashi, Youko Miyoshi, Kei Okamura, Takuroh Noguchi, Yooshihiro Kuwahara, Tomohiro Toki, Urumu Tsunogai, Tamaki Ura, Takeshi Nakatani, Toshihiro Maki, Kaoru Kubokawa, and Hitoshi Chiba: Magmatic water-rich shallow-water submarine hydrothermal activity bearing talc chimney at the Wakamiko crater in Kagoshima Bay, Southern Kyushu, Japan, Journal of Volcanology and Geothermal Research, v.258(0), 74-84</p> <p>5. Sayaka Mino, Hiroko Maikita, Tomohiro Toki, Junichi Miyazaki, Shingo Kato, Hiromi Watanabe, Hiroyuki Imachi, Tomo-o Watsuji, Takuro Nunoura, Shigeaki Kojima, Tomoo Sawabe, Ken Takai, and Satoshi Nakagawa: Biogeography of Persephonella in deep-sea hydrothermal vents of the Western Pacific, Frontier in Extreme Microbiology, v.4, 107, 2013</p> <p>6. Kentaro Nakamura, Tomohiro Toki, Nobutatsu Mochizuki, Miho Asada, Jun-ichiro Ishibashi, Yoshifumi Nogi, Shuro Yoshikawa, and Kyoko Okino: Discovery of a new hydrothermal vent site in the Southern Mariana Trough based on geophysical surveys using the AUV Urashima, Deep-Sea Research Part I, v.74, 1-10, 2013</p> <p>7. Shinsuke Kawagucci, Yuichiro Ueno, Ken Takai, Tomohiro Toki, Michihiro Ito, Kazuhiro Inoue, Akiko Makabe, Naohiro Yoshida, Yasuyuki Muramatsu, Naoto Takahata, Yuji Sano, Taku Narita, Genta Teranishi, Hajime Obata, Satoshi Nakagawa, Takuro Nunoura, and Toshitaka Gamo, Geochemical origin of hydrothermal fluid methane in sediment-associated fields and its relevance to the geographical distribution of whole hydrothermal circulation, Chemical Geology, v.339, 213-225, 2013</p>		
社会貢献	0.20	高校への研究紹介を行う。	0.00	今年は機会がなかった。		
管理運営	0.20	センター試験の監督をする。	0.03	当たらなかったもので、二次試験でも監督をする。夏には大学院入試の試験監督を行った。		
進路指導	0.20	卒研究生が九州大学への進学を希望しているので、支援する。	0.20	無事に九州大学への進学を決めた。修士で世話をしている院生は、東大への進学を希望しているが、結果が出るのは、まだ少し先の話である。		
	0.00		0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		土屋 誠	所 属		理学部 海洋自然科学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.25	学部、大学院を問わず、講義は会話を重視し、議論する力、考察する力を養うよう工夫する。2名の博士後期課程の学生(うち1名休学中)の3月修了を目指す。博士前期課程の学生については2名を修了させる。学会などに積極的に参加させるよう努力する。			0.25	講義では課題を与えて答えさせ、学生間での討論をさせ、かつ教員からコメントを与えるという対話を重視した講義は実現できた。博士後期課程の大学院生が修了出来なかったことが反省点である。3月で定年退職の為、同僚に引き継ぐ予定。前期課程の2名の留学生は修了した。二人とも国際学会で研究成果を発表し、現在、学術論文を執筆中である。		
研究	0.25	サンゴ礁島嶼系における河川と沿岸につながるに関する物質循環の研究を進め、3編以上の学術論文と一般書にまとめる。太平洋学術協会の事務局長として太平洋学術中間会議(フィジー)を運営する。日仏海洋学シンポジウム及び世界MPA会議の運営委員として尽力する。大学院学生の国際交流に関する概算要求を担当する。			0.25	学術論文は1編を公表、3編が受理され、2編が審査中である。また書籍は入稿済みである。このほかに自然観察に関する一般書を上梓した。太平洋学術中間会議(フィジー)と日仏海洋学シンポジウムの運営に携わり、日本からの参加者増加にも尽力した。大学院学生の国際交流に関する概算要求は採択に至らなかったため、改良して再度挑戦すべき担当を引きついだ。		
社会貢献	0.20	環境省と文化庁が担当する世界自然遺産の委員として活動し、琉球列島の世界自然遺産登録に向けて尽力する。沖縄においては、サンゴ礁保全委員会、那覇空港環境保全検討委員会などの委員長として地域に貢献する。また環境省が主催するサンゴ礁保全に関する国際集会の委員として、太平洋地域との国際交流に貢献する。			0.20	世界自然遺産科学委員会委員長として会議をまとめ、暫定リストの提出に尽力した。サンゴ礁保全委員会、那覇空港環境保全検討委員会などの委員長として会議をまとめ、地域に貢献した。環境省が主催するサンゴ礁保全に関する国際集会では運営委員として活動し、太平洋地域からの参加者の招聘や報告書の作成など、国際交流に貢献した。		
管理運営	0.20	経営協議会委員として琉球大学の経営に関して意見を述べ、運営に尽力する。国際サンゴ礁研究教育ハブ形成プロジェクトのリーダーとして運営に携わる。			0.20	経営協議会委員として琉球大学の経営に関して意見を述べ、運営に尽力した。国際サンゴ礁研究教育ハブ形成プロジェクトのリーダーとして運営に携わり、教員、大学院生の国際的な活動が活発に進むように尽力した。		
進路指導	0.10	学部学生、大学院生ともに意見交換を充実させ、本人の意思を尊重して進路に関するアドバイスをを行う。			0.10	博士前期課程を修了した留学生のうち、一人は母国において大学教員としての職を得た。もう一人は引き続き本学で外国員客員研究員として研究中である。後期課程の学生の進路についても指導しているが、学位論文執筆を最優先している。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠を広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		伊澤 雅子	所 属		理学部 海洋自然科学科
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.25	博物館学芸員コースの新課程対応カリキュラムを確立し実施を開始する。それにあって科目を担当するとともに、全学の委員会で運営を行なう。共通教育、専門科目、大学院において例年同様の科目を担当する。博士後期課程1名、前期課程学生1名の修了、後期課程学生2名の研究の開始をめざして指導を行なう。4年次6名について卒業研究の指導を行なう。2年次指導教員として学業・生活面に関する指導を行なう。		0.25	学芸員コースの新課程対応はおおむね順調に進んでいる。共通教育科目、専門科目、大学院科目についても例年通り実施した。専門科目について休講せざるを得ない事態があったが、補講を行なうことで対応した。博士後期課程1名、博士前期課程学生1名は修了予定であり、博士後期課程の2名の学生の研究も順調に進んでいる。4年次については、4名が卒業する。2年次指導教員として年次指導を行なった。
研究	0.25	ヤマネコ類、大東諸島の生態系、動物と植物との関係について大学院生・ポスドク研究員や系内および他大学の研究者と共同で生態学的研究を進める。国際的には台湾の研究者との共同研究を進める。現在投稿中の1編、投稿準備中の3編の論文について受理をめざす。一部は林野庁、環境省の受託研究として実施する。沖縄生物学会役員として50周年記念イベントを実施する。日本哺乳類学会評議員、奨励賞選考委員長として学会の運営にあたる。		0.30	イリオモテヤマネコ、ツシマヤマネコ、大東諸島の生態系についての研究はそれぞれの共同研究者と協力して順調に進めることができ、成果があがった。台湾との共同研究も本格的に開始することができた。本年度は共同研究者と共著で6編の査読付き論文と1冊の一般向け書籍を作成した。また、学会活動としては、沖縄生物学会役員として50周年記念イベントを運営した。日本哺乳類学会評議員、奨励賞選考委員長、和文誌編集委員として学会の運営にあたった。学会活動も順調に進めることができた。
社会貢献	0.10	環境省、林野庁、沖縄県関係の各種委員会にできる限り出席し、希少種の保護、環境保全について意見を述べる。大東諸島、西表・対馬の希少種について資料を収集し保護に関する提言を行なう。少なくとも1回の一般向け講演会を行なう。IUCNネコ科専門委員として保全に関する情報を発信する。		0.10	環境省、林野庁、沖縄県関係の各種委員会にできる限り出席し、希少種の保護、環境保全について意見を述べた。しかし、本年度は図書館長としての仕事のため、委員会に欠席することが多く、十分に任を果たしたとはいえない。1月に林野庁と共同で、イリオモテヤマネコについての最新知見と保全をテーマとした一般向けシンポジウムを開催した。
管理運営	0.30	図書館長として図書館の運営にあたり、全学の各種委員会に出席し、議論を行う。系の中では引き続き学務を担当する。		0.30	図書館長として図書館の運営にあたった。ジャーナルの価格変動による問題についての対応、他機関との協定、貴重書展等イベントの開催などを行なった。また、館長として全学の各種委員会に出席した。系の中では引き続き学務を担当したが、これについては例年と比して十分活動できたとはいえない。
進路指導	0.10	博士前期課程1名、4年次6名の進路指導を行なう。また、博物館学芸員コースの学生に対して就職情報を提供する。2年次指導教員として進路に関する情報を提供する。		0.05	博士前期課程1名、4年次6名の進路指導を行なった。また、博物館学芸員コースの学生に対して就職情報を提供した。2年次指導教員として年次懇談会の場で進路に関する情報収集の方法を指導した。また個別の相談に応じた。
	0.00				
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		横田昌嗣	所 属		理学部 海洋自然科学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.30	学部の植物形態解剖学, 生物学野外実習, 進化生態学実習, 基礎ゼミ, 博士前期課程の講義を行うほか, 卒論, 博士後期課程の学生の研究指導を行い, 短期留学プログラムの受講者を対象とした英語科目の講義を担当する。			0.30	当初の目的は達成した。その他, 進化生物学特別実験を実施し, 琉大特色科目の琉球の自然保護の世話人と講義の担当を行った。		
研究	0.30	現在執筆中のラン科に関する著書の原稿を完成させる。編集と執筆を担当している沖縄県史自然編, 沖縄県の野生生物に関する啓蒙書(沖縄生物学会発行), 琉球列島の野生生物に関する英文の啓蒙書(琉大COE編集)の原稿作成と編集作業を進める。琉球列島の野生植物の分類に関する原著論文を執筆し, 作成できたものから順次投稿する。			0.30	著書1, 原著論文6については2013年に印刷された。この他, 著書1については執筆を終え, 編集中である。他の著書については, 執筆中である。全体としては, おおむね当初の目的は達成した。		
社会貢献	0.15	沖縄県自然環境保全審議会(沖縄県), 沖縄県文化財保護審議会委員(沖縄県), 沖縄県環境影響評価審査会委員(沖縄県), 環境省野生生物課などの検討会委員として専門家の立場として自然保護や文化財保護について意見を述べる。			0.15	当初の目的は達成した。当年度は特に世界自然遺産関係の多数の委員会に出席して, 意見を述べた。その他, 小学校4年生を対象とした総合学習の授業で, 自然保護について講演と野外観察を行った。また, 奄美大島の2カ所で地域住民を対象とした生物多様性に関する講演を行った。		
管理運営	0.15	生物系内および理学部内の各種委員を務めるほか, エコロジカル・キャンパス推進委員会委員として学内の環境整備と管理に専門家の立場から意見を述べる。また琉球大学キャンパス内の自然を活用した施設整備と教育プログラムの作成に関わる。			0.15	当初の目的は達成した。その他, 附属図書館学術情報基盤資料委員会委員および理学部図書委員会委員長として, 電子ジャーナルやデータベース購読額の圧縮に力を割いた。		
進路指導	0.10	研究室に所属する学部学生, 博士課程後期の学生の進路について助言を行う。			0.10	当初の目的は, ほぼ達成した。海外の研究機関でポスドク研究員を務めている卒業生を沖縄生物学会の池原貞雄記念賞に推薦し, 卒業生は受賞者に選ばれた。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください。 ・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		萩原秋男	所 属		理学部 海洋自然科学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.40	学部の講義・実習と共通教育の講義を従来通り実施する。大学院の教育では学年・進度に応じて論文作成や学会発表を目標に指導を実施する。また、主査として、特別プログラム博士後期課程3年次1名の博士号取得に向けて指導を行う。			0.40	学部の講義・実習と共通教育の講義を従来通り実施した。大学院の教育では学年・進度に応じて論文作成や学会発表を目標に指導を実施した。また、主査として、特別プログラム博士後期課程3年次1名の博士号取得に向けた指導を行った。		
研究	0.35	現在投稿中・準備中の論文5件について受理を目指す。マングローブの分布北限における、個体群の維持機構、特に自己間引きについて調査・解析を進める。			0.40	投稿中の論文4編が印刷公表され、1編が査読中である。マングローブの分布北限における、個体群の維持機構、特に自己間引きについて調査・解析を進めた。		
社会貢献	0.05	沖縄県の審査会委員として、沖縄県の振興に尽くす。			0.00	委員会は開催されなかった。		
管理運営	0.10	大学院学務WGの一員として、その任を努める。			0.05	大学院学務WGの一員として、その任を努めた。		
進路指導	0.10	指導している特別プログラム博士後期課程3年次の就職活動を支援する。			0.15	指導していた特別プログラム博士後期課程3年次の院生が博士号を取得し、Khluna Universityの助教に採用された。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		久保田康裕	所 属	理学部 海洋自然科学科	職 名	准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.25	研究室の院生・学生の学位取得のために必要な学会発表、論文執筆を指導・支援する。大学院および学部担当科目を担当し、群集生態学や生物統計学に関する基礎知識の講義・演習などを行い、研究を行なう上での知的基盤の構築に貢献する。		0.25	共通教育の講義および、学部の専門教育は計画通り行い、目標を達成した。またカリキュラム上の講義とは別途に生物統計学に関する演習を行うことで、教育を補完した。院生の論文執筆を指導支援し、カナダ・オーストラリアの国際学会に出席させるなどして、論文を発表させた。	
研究	0.30	研究論文の投稿・採択を目指す。日本生態学会の自然保護委員、生態学教育委員として学会活動に貢献する。国際誌 (Ecological Research) のチーフエディター、Journal of Forest Researchの編集委員として学術雑誌の発展に貢献する。 科研費など外部資金を獲得し、自然環境の保全に応用できる生態学の基礎研究に努める。		0.30	文科省の科研費を、代表・分担併せて3課題を取得し、研究を行った。その結果、Journal of Biogeography, Ecosphereなど生物地理学・生態学分野の国際雑誌に2編、理科教育学会誌に生物多様性の教材開発に関する論文を発表できた。またJSPSの特定国派遣制度でポーランドに滞在し、同国およびチェコ共和国の研究者との共同研究を開始でき、当初の見込み以上の成果を得た。また、学術雑誌のチーフエディターとして、学会雑誌の発展に貢献した。	
社会貢献	0.10	沖縄県や環境省の事業や環境行政に関連した検討委員として、その進展に貢献する。奄美・琉球の世界自然遺産の科学委員会の委員として、琉球諸島の自然が遺産登録されるよう尽力する。		0.10	琉球諸島の世界自然遺産登録に関する環境省の有識者委員会のメンバーとして、その役割を達成した。また、沖縄県の自然環境保全委員会の委員として、地域の自然保護行政に貢献した。	
管理運営	0.25	所属部局における学務(教育委員会やFD委員会の活動など)を通して、大学の管理運営に貢献する。		0.25	学科の教育委員会委員としての役割を果たした。またFD委員として授業評価アンケートの集計を行い、その責務を果たした。また、全学教育委員会の自然科目委員として、共通教育の集中講義のアレンジなどを行い、全学の共通教育の運営に貢献した。	
進路指導	0.10	研究室学生(3名)・院生(3名)の指導教員として、進路や就職活動に関する相談を受け付け、学生の進路決定に有益な助言ができるよう努力する。		0.10	3年生の研究室配属に関連した進路や留学に関する相談などを行い、助言を行った。また研究室学生の就職活動に関する助言、院生の進路指導を行い、その役割を果たした。	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		傳田 哲郎	所 属		理学部 海洋自然科学科
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.25	共通教育科目、専門教育科目ともに、到達目標をさらに明確にすることや実習内容の見直しを進めることで教育効果の向上に努める。研究室に所属する大学院生を対象に、週1回のミーティングを実施し、学生の自主性を引き出せるようディスカッションを重ねながら時間をかけて指導をおこなう体制を構築する。また、修士学生については年間を通して2回の学会発表を目指すとともに、卒論の内容を取りまとめて論文にするよう指導する。		0.35	専門教育科目については、講義内容の見直しと同時に、あらたな教材の使用やプレゼンテーションの改善などを試み、一定の効果あげられた。共通教育については、担当者のミーティングをおこない、各担当課題毎に教育目標の確認をおこなった。一方で、実験の持ち方についての課題が浮き彫りになってきているが、これに対する明確な改善策は見いだせていない。研究室に所属する大学院生については、毎週一回のミーティングによりきめ細かな指導をおこなうことができた。このミーティングは研究の進展にとって大きな効果をあげていると考えているが、学生の自主性についてはまだ課題が多い。また、卒業研究時の仕事1件を論文として投稿し受理された。
研究	0.35	今年度はこれまで継続してきた研究をさらに進展させると共に、琉球列島の植物多様性について新たな切り口でアプローチすることに取り組む。特に、これまで琉球列島の植物ではあまり注目されてこなかった生態的な多様性について、クサトベラの送粉システムやアカボシツナミソウの発芽特性に着目して研究を進める。		0.25	前年度の台風の影響により昆虫相が大きく変化するなどのトラブルに見舞われたが、目標に掲げたクサトベラの送粉システムやアカボシツナミソウの発芽特性に関する研究については着実にデータを蓄積することができ、大きな成果をあげることができた。特にアカボシツナミソウについては新規の見解も得られており、その一部についてはすでに論文取りまとめの作業を進めている。今年度は受理された論文が4編、投稿中のものが4編あり、学外研究者との共同研究も含めて積極的に論文執筆を進めることができたと思う。
社会貢献	0.10	昨年度に引き続き沖縄生物学会事務局としての活動をおこなう。これまで継続してきた大東諸島のピロウについて、現地で一般の方を対象とした講演会を開くなど、社会への情報発信に努める。		0.15	沖縄生物学会では、これまで通り会計幹事としての業務を行うとともに、第50回大会記念行事の実行委員として、シンポジウムの開催、写真展の開催を推進した。また、第50回大会に先立って新聞に記事を掲載するなどの情報発信もおこなった。大東諸島のピロウについては講演会を開催することができなかったが、陸域生物に関する社会への啓発活動の一環として、大東島でおこなったオカヤドカリの花蜜食に関する研究の記事を新聞に掲載した。
管理運営	0.20	生物系の学務担当として、共通教育・専門教育に関する学務の円滑な運営に貢献する。またサンゴ礁ハブ形成プロジェクトメンバーの一員として、プロジェクトの推進に努力する。		0.15	生物系の学務担当として共通教育・専門教育に関する学務の運営には協力してきたが、必ずしも積極的に関わってきたとは言えず、今後改善したい。またサンゴ礁ハブ形成プロジェクトについては、会計担当としてプロジェクトの推進に努力した。
進路指導	0.10	研究室所属の学部・大学院生とのコミュニケーションを通じて進路に関する希望を把握し、適切な指導に努める。		0.10	研究室所属学生の進路指導については必要最小限のことにとどまっており、必ずしも十分な指導ができたとは言えない。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	中村 崇		所 属	理学部 海洋自然科学科	
職 名	講師				
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.30	講義担当科目の内容充実を図る。担当実習は、サンゴ礁をより体験的に理解できるよう、瀬底実験施設にて生物生産学実習VIIIと連携しつつ実施する。また、留学生向けには、OIMAP、短期留学プログラム、APIセミナーのレクチャーを担当する。5名の卒研指導および3名の修論研究指導を担当する。また、3年次の年次指導を充実させる。		0.30	担当科目・実習について当初目標が達成できた。留学生向け講義では、満足できる水準での実施ができた。また、研究室配属の卒研、博士前期・博士後期課程学生の卒論・修論・論文作成指導に加え、ダブルディグリープログラムの修士留学生の修論指導を実施した。卒業生2名については、休学および卒業延長の希望が出されたので、引き続き指導を行うこととした。3年次の研究室配属・配属後のケアについてはメール/面談による個別指導などで実施した。
研究	0.45	サンゴ礁生物の代謝調整能力・骨格形成メカニズムを明らかにするための研究を進める(科研若手B/科研A分担)。成果については論文として受理を目指す。また、野外での潜水調査を順次おこない、石西礁湖での個体群生態学および繁殖生態学的なサンゴモニタリング調査および水質解析を進める(環境省/いであ)。SATREPSプロジェクト(JST/JICA)代表者として、サンゴ礁島嶼生態系の自然・社会科学双方からの研究推進を進める。		0.45	予定していたサンゴの代謝調整能を明らかにするための実験研究を共同で進めることができた。骨格形成に関する研究は現在瀬底実験施設で実施中である。昨年度までの研究成果については、英文の共著論文として受理・掲載が達成できた。また、石西礁湖の調査サイトにおけるサンゴ個体群モニタリングを実施した。SATREPS研究代表者として、パラオ国へのPD派遣等・現地関係者との調整を進めつつ、パラオにおける研究環境の整備及び調査研究を開始することができた。
社会貢献	0.10	日本サンゴ礁学会広報委員、評議員として、学会運営に関わる。また、沖縄生物学会庶務幹事として学会および大会運営をおこなう。川口四郎博士の邦文報告(原文および現代仮名遣い版)の公開を進める。一般向けには、国内での公開講座およびパラオ国での公開講座・レクチャーシリーズに積極的にに関わり、大学での研究成果の社会還元を促進する。		0.10	沖縄生物学会では庶務幹事として学会および大会準備運営に関わる事ができた。また、琉大公開講座、中・高修学旅行生へのサンゴ礁生物についてのレクチャーなど、研究成果の社会還元を積極的に実施することができた。海外では、パラオ国での一般向けレクチャーや海洋保護区レンジャー向けの講義等を実施し、現地への研究成果還元にも関わることができた。
管理運営	0.10	学部(生物系)関連の学務担当に関わる。また、理学部の図書委員、OIMAP運営委員、エコ推進委員を務める。ダブルディグリープログラムの運営委員として相手国教員との協議など各種業務を担当しつつ、推進に努める。		0.10	系学務担当の世話人としては出張が続きWGおよび事務室職員への負担が大きかった点が反省される。その他、OIMAP運営委員、エコ推進委員を務めた。また、ダブルディグリープログラム運営委員として各種業務を担当した。全学の研究推進戦略委員会の企画員として、中期計画達成のための企画策定及び推進に取り組んだ。
進路指導	0.05	3年次指導教員として、年次懇談会、1・3研修のコーディネートや、履修登録および奨学金申請等を通じた大学生活の基礎指導をおこなう。また、就職センターや保健管理センターと連携をとりつつ、現在配属されている学部生の卒業研究指導・進学・就職の相談に対応し、進路決定のサポートをおこなう。大学院修士課程の進路相談・就職相談を行う。		0.05	3年次指導教員として、年次懇談会実施、1・3研修、履修登録および奨学金申請等を通じた大学生活全般の指導をおこなった。また、研究室所属生の就職については、県内環境アセス関連企業への紹介等を実施した。大学院生の主査・副査を担当しつつ、特に研究室所属の留学生について、奨学金・授業料免除などの申請補助をおこなった。
	0.00			0.00	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		栗原 晴子	所 属		理学部 海洋自然科学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.25	生物海洋学の基礎的知識の学習, 理解を促す授業の実施 目的意識をしっかりと持ち、自律性、積極性および国際的意識を持つ学生の教育、研究指導の実施			0.25	海洋環境学、ウニの発生観察実習、Introduction to Oceanographyなど生物海洋学の基礎を学習する授業を実施した。自律性、自主性、積極性を養うためにゼミ/討論形式の授業も実施した。2名の学部生および2名の修士学生の研究指導を実施した。国際的意識や議論能力を持つ学生を指導するため、国際シンポジウムを主催し、学生達による討論の場を設けた。		
研究	0.35	国際雑誌/国内雑誌への論文のと投稿 国際/国内学会での研究成果発表の実施 国際シンポジウムのオーガナイズ、外部資金の獲得 (CRESTへの応募等) 国内/国際の共同研究 サンゴ礁学会の評議員、広報委員の実施			0.40	国際誌に4本の論文を掲載し、うち一本はNatureの姉妹雑誌Nature Climate Change に論文を発表した。第一著者として5回の学会発表(うち4回は国際学会、3回は招待講演)を行った。また日本海洋学会より海洋環境科学賞を受賞した。7月に開催された日豪海洋ワークショップでは議長を務め、9月には国際シンポジウム「Workshop of Ocean Acidification in Coral Reefs-Bringing gaps between field and laboratory studies」の主催をした。外部資金は科研若手B(代表)、日揮(代表)、CREST(分担)を獲得した。		
社会貢献	0.15	環境教育の普及活動の実施、環境保全活動への参加、ホームページやメディア等による研究により得られた成果を社会へ情報発信、学外審議会、委員会への参加			0.20	JSTサイエンスニュース、琉球新報、YahooNews、日経等で研究内容が発信された。サンゴ礁学会評議員、サンゴ礁学会広報委員、海洋学会海洋環境委員、SCAR“Ocean Acidification action group”委員、国連プロジェクト(Global Marine Assessment)委員を務めた。		
管理運営	0.15	大学院学務の実施、委員会委員業務の実施			0.10	大学院学務、選挙管理委員などの業務を実施した。		
進路指導	0.10	学生への就職活動に関わる情報の提供、研究室に所属する学生の進路相談			0.05	学生への進路相談や就職情報の提供をした。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前	日高 道雄		所 属	理学部 海洋自然科学科		職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.30	学部および共通教育担当科目を従来通り担当する。大学院のゼミは、英語による発表とし、日本人と留学生の共通講義化する。ダブルディグリープログラムの実施については引き続き協力する。専門の実習に留学生をTAとして配置することにより、英語による実習ガイダンスも取り入れる。		0.30	大学院のゼミおよび講義(受講生9名、うち留学生4名)は英語で講義を行った。ダブルディグリーの入試世話人として面接試験の調整を行った。専門実習では留学生2名をTAとして採用し、英語による指導も取り入れた。学部および共通教育の講義もおおむね順調であった。		
研究	0.30	新学術領域研究「サンゴ礁学」(平成24年度で終了)および基盤研究C「造礁サンゴの無性生殖・再生能力の細胞学的基盤」(平成25年度で終了)の研究成果について、大学院生、ポスドク研究員と共に研究論文(3編の受理, 1編の投稿を目標)の公表を目指す。来年度の科研費に申請する。日本サンゴ礁学会国際連携委員会委員長を任期まで務め、次回アジア太平洋サンゴ礁シンポジウムの開催に協力する。		0.30	「サンゴ礁学」の成果の英文書籍を準備中である(自分の章はほぼ完成)。基盤研究C「造礁サンゴの無性生殖・再生能力の細胞学的基盤」では、今年度は2編の論文(うち1編は印刷中)の成果を出した。今年度は現在までに1編出版、1編受理、2編投稿中であり、ほぼ目標に近いと思われる。		
社会貢献	0.10	沖縄生物学会の会長として、沖縄に特徴的な生物の教材化、最新研究成果の初等中等教育への普及、小中高校の教員との理科教育における連携を活発化させる。今年度も引き続き委員を委嘱された場合は、サンゴ礁保全行動計画のフォローアップ作業に協力する。		0.10	沖縄県環境評価審査会委員として様々な事業の事後調査を行った。沖縄生物学会会長として、理科教育連携WGを立ち上げるほか、沖縄生物教育研究会で招待講演を行った。日本サンゴ礁学会副会長として、第3回アジア太平洋サンゴ礁シンポジウムに参加する学生や若手研究者支援の仕組みづくりを行った。		
管理運営	0.20	OIMAPの運営委員会委員として、次期OIMAP申請書作成に協力する。生物系内の財務担当などの委員会活動に積極的に参加する。理学部学生支援委員会委員として、学生の就職活動支援などを担当する。		0.20	理学部学生支援委員会委員として、就職セミナー、ゆみみそ一れ原稿集めなどを行った。大学の不正論文問題調査委員会委員として現在活動している。財務委員としての通常活動のほか、中期計画の戦略的研究推進経費申請書を作成準備中である。		
進路指導	0.10	研究室の卒論生、大学院生にきめ細かく進路指導する。2年次の指導教員として、履修指導や進路指導にあたる。		0.10	博士修了者1名は科研費研究員として研究を継続中である。博士修了予定者1名は民間の食品会社に就職内定した。学部卒業予定者3名のうち1名は大学院進学、1名は民間会社に内定、1名は未定である。残る3名の博士後期課程学生、1名の前期課程学生とはおりにふれ進路について話し合ってきた。		
	0.00			0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		廣瀬 裕一		所 属		理学部 海洋自然科学科		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果				
教育	0.25	担当する学部の正規の授業は従来通り、加えて短期留学プログラムでも講義を提供する。学芸員課程の講義を新たに分担する。大学院生の教育では学年・進度に応じて論文作成や学会発表を目標に指導を進める。				0.25	担当の授業は短期留学プログラムを含め予定通り行った。台湾との合同野外実習を分担した。院生のうち1名は予定の学会発表ができなかったが、1名は半年の短縮修了で博士を取得した。他の学生は予定通り。なお学科長として管理運営のウェイトが大きくなるため、大学院の講義(選択科目)は開講していない。				
研究	0.20	現在投稿中・投稿準備中の論文3件について受理を目指す。体表微細構造とその機能についての研究を進める。日本比較免疫学会役員(広報担当)として学会運営をサポートするとともに、社会へ研究情報を発信する。日本動物学会国際交流委員・九州支部委員を担当する。				0.20	今年度5編の論文を発表し(前年度に受理されたものを含む)、2編が印刷中である。これには体表微細構造の機能を生物模倣の視点から取組んだ共同研究が含まれる。日本比較免疫学会役員(広報担当)、日本動物学会国際交流委員・九州支部委員としても担当を果たした。ポゴール農業大、兵庫県立大でセミナーを行った。				
社会貢献	0.10	離島開催の教員免許更新講習講座を提供する。横田教授と公開講座分担担当する。日本動物学会大会において一般公開の展示「動物学ひろば」に参加する。				0.10	年度目標にあげた講座等を予定通り担当した。豊田中央研究所の依頼でセミナーを担当した。				
管理運営	0.40	海洋自然科学科長・生物系主任として各種業務を担当するとともに、業務の省力化と系内WGの分掌再編を目指す。大学院学務WGにも協力する。				0.40	海洋自然科学科長・生物系主任として各種業務を担当した。系内WGの省力にも務めたが、系に流れてくる業務は増大しているため、各教員の負担は減っていない。教職員の過重労働が今後問題となろう。系内の大学院学務WGの業務も分担した。				
進路指導	0.05	配属の学部4年次生の進路確定に努める。担当の教職科目を通して、教職志望の学生について進路指導を行う。				0.05	配属の学生で進路が確定できない者があった。担当の教職科目を通して、教職志望の学生について進路指導を行った。今年度は海洋自然科学科で2名の現役合格があったことから、一定の成果が上がっていると考えられる。				
	0.00					0.00					
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 				1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	池田 譲		所 属	理学部 海洋自然科学科	
職 名	教授				
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.40	分かりやすい共通教育と学部専門講義、受講者自らが考え議論する大学院専門講義を行う。日常的な実験、ゼミにおける論文講読を通じ、学部4年生、大学院生、ポスドクの研究指導を行う。		0.40	共通教育、学部専門講義については、アンケート等から概ね目標を達成したと判断できた。大学院専門講義では、参加者の活発な議論を引き出し、実りある内容とすることができた。学部4年生、大学院生、ポスドクの研究指導では、議論を日常的に重ね、学術的に評価し得る内容の研究を遂行させることができた。
研究	0.40	科学研究費補助金の助成対象となった研究課題を遂行する。また、新たに科学研究費補助金に応募する。本年9月に三重県にて開催予定の日本水産学会秋季大会シンポジウムを企画者、講演者として遂行する。		0.40	科学研究費補助金の助成対象となった研究課題を遂行し、成果を国内学会にて発表した。また、平成25年9月に三重県にて開催された日本水産学会秋季大会シンポジウムでは企画者、講演者として会を遂行した。また、同年10月に東京にて開催された科学研究費補助金 新学術領域研究「共感性の進化・神経基盤」計画班「共感性の系統発生」キックオフシンポジウム、平成26年1月に愛知県にて開催されたThe 9th Inuyama Comparative Social Cognition Symposiumで招待講演をそれぞれ務め、研究内容を敷衍するとともに、専門分野について活発に議論した。また、新たに科学研究費補助金に2課題、民間研究助成に1課題、応募した。さらに、研究成果を4本の学術論文として国際誌に発表した。
社会貢献	0.05	理学部広報委員長としてオープンキャンパス・理学部体験ツアーの準備を進める。		0.05	理学部広報委員長としてオープンキャンパス・理学部体験ツアーを準備して実施した。また、平成25年7月にキッズラボ主催のサイエンスキャンプの一貫として児童の大学への来訪を受け、自身の研究内容を分かりやすく講演した。同年25年10月には、東京で開催された公益財団法人水産無脊椎動物研究所 設立25周年記念シンポジウム「無脊椎動物に心はあるか？」での招待講演を務め、自身の研究内容を広く一般に敷衍した。さらに、NHKスペシャル「深海の巨大生物 伝説のイカ 宿命の闘い」、BSフジ「ムツゴロウのゆかいな動物図鑑 知的な海の頭足類～イカのユニークな行動」にそれぞれ出演して、専門的説明をし、自身の研究内容についても広く一般に紹介した。その他、自身の専門分野について各種マスコミからの取材に対応し、頭足類に関する学術知見について敷衍した。
管理運営	0.10	生物系広報グループメンバー、理学部自己評価委員として生物系に関わる広報活動と理学部の自己評価に関する事柄に従事する。また、動物実験委員、アドミッション・オフィス委員、全学広報委員として、動物実験、AO入試、広報に関する諸事に関わる。		0.10	生物系広報グループメンバー、理学部広報委員長、理学部自己評価委員として生物系と理学部に関わる広報活動と理学部の自己評価を担当した。また、動物実験委員、アドミッション・オフィス委員、全学広報委員として、動物実験の審査、八重山高校での大学説明レクチャー、広報など全学レベルの諸事に関わった。また、科研費アドバイザーにも就任した。
進路指導	0.05	学部生、大学院生およびポスドクの進路について、日常的に助言、サポートを行う。		0.05	学部生、大学院生およびポスドクの進路について、日常的に助言、サポートを随時、行った。学部4年生については、進学、就職など概ね希望の進路選択をするに至った。大学院後期課程学生については、博士号取得に向けての論文投稿と受理、学位論文の作成を進めることができた。ポスドクについては、各種奨励金への申請などを進め、研究者としての訓練を積み重ねることができた。なお、日常的な指導の成果として、ポスドク1名が民間の研究助成(2年間)に採択された。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	竹村明洋		所 属	理学部 海洋自然科学科	
職 名	教授				
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定	業務 ウエイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.25	共通教育科目(生命の科学など)及び学部専門科目(比較内分泌学など)を担当する。加えて短期留学プログラムでも講義を行う。大学院科目(比較内分泌学特論、Advanced Comparative Endocrinology、Reproductive Physiologyなど)を担当する。大学院博士後期及び修士課程の学生を指導し、研究成果を国際学術誌に投稿し、論文採択を目指す(博士後期課程学生においてはそれぞれ少なくとも1報以上を目指す)。	0.20	共通教育・学部講義として「生命の科学」、「比較内分泌学」、「熱帯生物生産学概論」、「沖縄のサンゴ礁」、「基礎ゼミ」、「海洋生物生産学実習」などを、大学院講義として「比較内分泌学特論」、「Advanced Comparative Endocrinology」、「Reproductive Physiology」などを担当した。加えて、短プロの一コマを担当した。9th International Conference on the Marine Biodiversity and Environmental Fisheries Science of the East China Seaで研究室所属4年次学生が最優秀ポスター賞を受賞した。またサンゴ礁学会で研究室所属学生がポスター賞を受賞した。博士後期課程在学生在が筆頭著者の論文をGeneral and Comparative Endocrinologyに掲載された。学生が筆頭発表者である口頭発表もしくはポスター発表は10回、このうち国際学会は7回であった。年度目標は達成したと判断する。	
研究	0.30	外部資金による研究を計画通り進め、サンゴ礁魚類の環境利用特性の一端を明らかにする。韓国の研究者との国際共同研究を実施し、海洋環境に適応した魚の活動リズムを沖縄と比較する。一連の研究を大学院博士課程の学生と共に進め、研究論文の採択を目指す。	0.20	外部資金として3種類の科研費(基盤研究A(一般研究)、基盤研究B(海外学術調査)、挑戦的萌芽研究)を獲得した。本年度の外部資金の獲得は、直接経費で1380万円であった。韓国とフィリピンを訪問し、共同研究を行った。共同研究の結果が6編の論文として出版された。共同研究による学会発表は国内外合わせて9回であった。そのうち一回はKeynote speakerであった。サンゴの一斉産卵に関する研究発表が新聞報道された。年度目標は達成したと判断する。	
社会貢献	0.15	県内外の中学・高校の総合学習等、そして教員免許講習講座に協力する。NPOや学会等の企画する実習や講演会に積極的に参画し、サンゴ礁生物環境の一般理解を深める。学会活動および学術雑誌の査読を通じて、関連分野の発展に貢献する。	0.20	9th International Conference on the Marine Biodiversity and Environmental Fisheries Science of the East China SeaのInternational Organizing Committeeをした。日本テレビ「いのちのいろいろ(毎週火曜日20:54~)」のルリスズメの回を監修。済州大学(韓国)学部学生及びフィリピン大学ピサヤス校の大学院生に対して講義を行った。サマーコースで台湾と日本の学生に講義を行った。公開講座を行った。第37回沖縄の産業まつり出展した。「しまのゆんたくin久米島」でファシリテーターをした。学術雑誌に投稿された論文(計16編: Aquaculture, General and Comparative Endocrinology, Journal of Fish Biology, Marine Biology Research, Fish Physiology and Biochemistryなど)の査読を行った。昨年度から引き続き、Comparative Biochemistry and Physiology, Development & Reproduction, Open Journal of FisheriesのEditorial Board Memberとして雑誌の編集に携わった。年度目標は達成したと判断する。	
管理運営	0.25	学長補佐として本学の研究推進・戦略について学長・および担当副学長を補佐する。亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構長として本学の学際的な研究プログラムを推進する。また、理学部や所属学科系における各種委員会等を通して学部学科の管理運営に積極的に参加する。	0.30	亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構長として、ライジングスタープログラムの事後評価報告書を作成するとともにヒアリングに出席した。これをもってライジングスタープログラムを成功裏に終了することができた。また、同機構の管理運営をスムーズに行うことができた。学長補佐(研究担当)として、研究担当理事を補佐した。研究推進戦略会議企画員として本学の研究獲得向上に向けたいくつかの施策を実施した。さらに、企画経営戦略会議の委員として全学的な将来計画策定等に関わった。これらに加えて、企画経営戦略推進本部会議委員や琉大コミュニティキャンパス事業本部員としての業務を行った。理学部や生物系では、広報ワーキンググループの世話役を担当し、学部や系の運営に携わった。年度目標は達成したと判断する。	
進路指導	0.05	4年次指導教員としてキャリア形成、進路相談、進路指導を行う。配属の学部4年生や大学院生の進路確定に努める。	0.10	4年次指導教員として就学や進路の相談にのった。研究室所属の学生(5名)の進路指導をし、大学院志望者に関しては琉大大学院(4名)が決定した。残り1名は沖縄県内のIT企業に決定した。修士課程終了予定者についても進路の相談を受け、オーストラリアへのワーキングホリデーに行くことが決定した。年度目標は達成したと判断する。	
	0.00		0.00		
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		立原一憲	所 属		理学部 海洋自然科学科
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.30	講義の理解度を把握するため、毎回理解度チェック用紙を配布し、問題点があれば、次回の講義で補足説明を実施する。実習では、大学外の機関と連携し、実習内容が社会でどのように活用されているかを体感させるよう試みる。大学院教育に関しては、各自の研究目標を明確に設定し、論文発表を促す。毎週、研究室在籍学生の学業の進捗状況を報告させる。		0.25	生物学概論の講義では、毎回、授業の理解度をチェックする用紙を配布し、疑問点や理解できなかった点を記入させ、翌週の講義に反映させた。海洋生物生産学実習Ⅱでは、沖縄県栽培漁業センターの視察を行い、実習内容の応用を実体験させた。研究室に所属する学生に対しては、毎週、研究と学習の近況報告をさせ、問題がある学生については個人的に対応した。
研究	0.25	今年度は、4報の論文の印刷もしくは受理を目標とする。少なくとも国際学会3、国内学会3の学会発表を行う。現在進めている琉球列島産魚類の生活史の研究に研鑽する。各種学会の役員を引き受け、依頼された論文の査読を積極的に行う。受託研究費の獲得に努める。		0.30	1月末現在で8報の論文が印刷された(目標の2倍)。また、国際学会10回、国内学会10回(目標の約3倍)の発表を行った。沖縄で開催された国際魚類会議の委員を務めた。魚類学会の編集委員として学会誌(IR、魚雑)の発行に尽力した。直接経費約1,366万円(25年度)の受託研究費を獲得した。
社会貢献	0.25	外部の委員を積極的に引き受け、各種委員会への出席や民間企業へのアドバイスは、少なくとも毎月3回程度、年間36回程度を目標とする。沖縄の自然保護や環境教育に関する啓発活動を行う。		0.25	県や国の委員として1月末現在、委員会出席と企業アドバイス、計78回(目標の約2倍)を行った。リュウキュウアユの保全に関する会議を開き、国や県の関連団体を集めて積極的な保全策を提案した。沖縄県内水面漁場管理委員会会長を務めた。
管理運営	0.15	担当する学内、系内の委員をこなす。大学院学務として9月と3月に滞りなく修了生を送り出せるよう努める。		0.15	系内の大学院学務の仕事をこなし、9月および3月に滞りなく学生を終了させとともに、研究室に所属する学部生6名を卒業させる予定である。
進路指導	0.05	卒業、修了予定者の進路に関して積極的に相談に乗り、具体的なアドバイスを行うとともに、必要に応じて推薦状を作成する。		0.05	水族館への就職を希望する学生に就職先を紹介するとともに、就職が決まらない学生に来年度からの非常勤職員の推薦を行った。
	0.00			0.00	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		James Davis REIMER	所 属		理学部 海洋自然科学科
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.25	<p>共通教育科目(生命の科学など)及び学部専門科目(サンゴ礁多様性保全学)を担当する。</p> <p>大学院科目(English Manuscript Preparation, Advanced Invertebrate Biologyなど)を担当する。大学院博士後期及び修士課程の学生を指導し、研究成果を国際学術誌に投稿し、論文採択を目指す。</p>		0.30	<p>共通教育科目(熱帯生物生産学概論、生物学実験)及び学部専門科目(サンゴ礁多様性保全学)を担当して、予定通り行った。大学院の科目も(博士前期・後期)担当した。大学院生10人の中の9人は学会発表や、論文投稿・発表の目標を達成した。論文では、学生がauthorsに入っているのは8件受理された(2件は投稿中)。</p>
研究	0.55	<p>現在投稿中・準備中の論文5件について受理を目指す。沖縄や太平洋におけるスナギンチャク類の調査や遺伝的変異について研究を進める。一連の研究を大学院博士課程の学生と共に行い、研究論文の採択を目指す。学会活動および学術雑誌の査読を通じて、関連分野の発展に貢献する。</p>		0.40	<p>2013年度で、論文13件が受理された。論文の内容はスナギンチャク類の多様性・記載をはじめ、ハナギンチャクや <i>Symbiodinium</i> 共生藻のテーマのもあった。2つの国際journalのAssociate Editorになった(Raffles Bulletin of Zoology, Zoological Studies)。さらに、海外大型生物多様性調査にも招待された(KAUST, Saudi Arabia)。</p>
社会貢献	0.05	<p>パラオで行うSATREPS Projectでは、outreach活動やcapacity buildingを行う。</p>		0.05	<p>PalauのSATREPSprojectの人材育成、そしてoutreach活動を行った。人材育成で、PalauからのJICA留学生(博士前期)1人を研究室に受け入れ、現在研究を指導中。教員免許更新講習については琉球大学で講座を提供した。</p>
管理運営	0.10	<p>大学院学務WGやOIMAP委員会で構成員として参加する。大学院WGでは、10月の留学生orientationや、卒業発表会の広報や準備を行う。OIMAP委員会では、H25年度の新規申請に動力を行う。</p>		0.20	<p>大学院WG及びOIMAP委員会で、協力した。特に、OIMAP留学生募集の訂正、最終試験の発表会のsettingなどをした。学部では、1年次指導教員として、orientation、授業登録のアドバイス、成績確認、counsellingや相談窓口など行った。1-3研修にも参加した(座間味島で)。</p>
進路指導	0.05	<p>配属の学部4年次生の進路確定に努める。1年次指導教員として、学生について進路指導を行う。</p>		0.05	<p>ライマー研から卒業する4年次2人が無事に内定をもらい、大学院生卒業する4人の中に、2人は進学、1人は就職できて、のこりの1人は就職活動中。</p>
	0.00			0.00	
計	1.00	<p>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>		1.00	<p>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	